

# AMDA

## 多様性の共存

# ジャーナル

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)  
<https://amda.or.jp/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
<https://www.amda-minds.org/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター  
<https://www.amdamedicalcenter.com/>  
 AMDA 兵庫 <http://amda-hyogo.com/>

2021 年 7 月 25 日 VOL.44 第 298 号 定価 550 円  
 発行 / AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail: member@amda.or.jp  
 郵便振替: 01250-2-40709 □座名: 特定非営利活動法人アムダ

2021 年  
夏号



救える命があればどこまでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第29回

社会福祉法人 恩賜財団 済生会 支部岡山県済生会  
 支部長 岩本 一壽 様

AMDA を支えてくださっている方々の様々なエピソードをインタビュー形式でお届けします。今回は、岡山済生会総合病院（以降岡山済生会）とともに歴史を重ねてこられた岩本一壽様です。（聞き手:AMDA 理事 難波 妙）

**AMDA** 岡山済生会で、国際協力を始めたきっかけについてお聞かせください。

**岩本** 1980 年、カンボジアのポルポト派による大量虐殺で多くのカンボジア難民がタイに逃れました。その際、JICA から難民支援の医療班派遣要請が済生会本部にあり、岡山から、当院の中興の祖、大和人士院長を中心とする医師 4 名、看護師 6 名を 3 か月間、タイに派遣しました。大和院長が出発前に菅波代表に熱帯医療について相談したことがある意味、岡山済生会と AMDA との接点の原点です。つまり AMDA 設立前からのご縁です。大和院長は、難民キャンプで、難民の救済のみならず、自分の健康は自分でまもる、「予防医学」を普及しました。

**AMDA** 大和院長の予防医学への取り組みが国際協力につながったということですか？

**岩本** 大和院長は、予防医学の視点から、1962 年に瀬戸内海巡回診療船「済生丸」を就航させました。現在も岡山・香川・愛媛・広島 4 県済生会の合同事業として継続しています。岡山済生会は災害医療や国際協力の前に、予防医学の普及を一貫して行っているということです。

**AMDA** 阪神淡路大震災での支援でも済生丸が活躍しましたね。

**岩本** 発生直後、被災地に向かう AMDA に、岡山済生会の医療資材をごっそり託しました。震災発生翌日、当時、済生丸連絡事務所長をしていた私のところへ岡山県から済生丸による支援要請がありました。巡回診療で停泊していた松山港から岡山県に戻るまでの 6 時間のあいだに、県から要請のあった診療班とトラック 5 台分の支援物資を準備しました。済生丸は、1 月 19 日午前 1 時に岡山港を出航。神戸新港から被災地まで交通手段がない中、医師 2 名看護師 2 名他 2 名は、自分たちが使う医薬品を担いで徒歩で長田区の真野小学校へ向かいました。船は JR



が開通するまでは、岡山・神戸間をピストン運航。その後は神戸港での宿泊拠点となりました。このような活動を 2 月末まで継続しました。

**AMDA** AMDA の海外関係者の医療研修にもご協力いただきました。

**岩本** 岡山済生会の運営基本方針の中に国際協力の推進があります。これまで、当院への海外からの訪問者は、1985 年から 2019 年まで 30 か国から 360 人、訪問期間 1 か月以上の研修生は 61 人に上ります。私は医者ではありませんが、その歴史をともに歩んできた済生会の

責任者として、国際協力の伝統を作った先達の志を守っていかなければなりません。

**AMDA** 2015 年には菅波代表とともにベトナム 175 病院との協定締結に臨まれました。

**岩本** ベトナムにはまだ家族で支え合う日本の昔の家族制度の精神が残っていると思います。今後もベトナムから特定技能「介護」の在留資格者を当会の経営する福祉施設で受け入れ、今後さらに厳しくなる日本の高齢化と人材不足に備えるためと人材育成に貢献すること、そして、日本の介護技術を母国で伝える「日本とベトナムの橋渡し役」を担ってくれることを願っています。

**AMDA** AMDA に対する印象をお聞かせください。

**岩本** AMDA は今や日本のみならず多くの国々で活躍する国際医療貢献団体で機動力は素晴らしく早い。加えて、菅波先生は「国際貢献は支援を受ける側にもプライドがある。押し付けの支援ではなく信頼関係をいかに築くかがポイントで、お互いを尊重する姿勢がないと成功しない」と常々言われています。先生の人間力、先を見据えて国や県、いろんな組織を巻き込む総合力をもった優れた指導者です。

**AMDA** 最後に、座右の銘をお聞かせください。

**岩本** 佐藤一斎さんの「一燈を掲げて暗夜を行く。暗夜を憂うることなかれ。ただ一燈を頼め」です。

## 保健省の指示で AMDA ネパールの病院、新型コロナウイルス対応病院へ

ネパールでは2020年1月23日に初めての感染者が確認されて以降、新型コロナウイルス感染者数は621,056人、死亡者数は8,726人（ネパール保健省、6月20日発表）。2021年4月末から第2波が起き、政府の病院や私立病院は新型コロナウイルス対応病院となりましたが、ベッドや酸素が不足し、死者が相次ぎました。医療崩壊の危機に対し、保健省からAMDAネパール支部の病院にも対応するよう指示がありました。AMDAネパール支部の病院のうち、AMDAダマック病院とネパール子ども



の病院は重症患者を受け入れる体制を整え、AMDAの支援でICUに必要な資材を購入することができました。更に、軽症で自宅隔離する職員や住民らにマスクや消毒液、パルスオキシメーターや体温計などを提供。「緊急事態にすぐに対応していただき感謝します」と支部長からお礼の電話がありました。

尚、AMDAネパール支部は2020年2月、AMDA本部からの依頼に対し、20,000枚のマスクを準備、中国と日本に発送しました。

(GPSP推進戦略局ネパール担当部長 アルチャナシュレスタジョシ)

## AMDA こども食堂支援プラットフォーム活動

2021年4月こども食堂支援プラットフォームに対しておいしい支援をいただきました。

今回のご支援は「果汁100%ミニカップゼリー15g×20個」19箱です。株式会社コンケン様との共同での社会貢献の取り組みでいただいたものです。4月30日にこども食堂14団体へ配布しました。株式会社コンケンご担当者様からは「この支援により少しでも多くの子どもの笑顔が見られることを願っています」とのメッセージをいただきました。

また、配布したこども食堂団体からの報告をご紹介します。

「5月16日に学区の他の団体からの物資も合わせ19世帯へ配布しました。受け取られた方々は『子どもたちはゼリーが大好きなので嬉し



いです』と話しておられました。」

2018年度以来、年4回こども食堂へAMDA米を贈呈していますが、今年度第一回目の贈呈を2021年6月18日、希望された5団体へ計320kgを贈呈しました。こども食堂のスタッフさんたちからは、「新型コロナウイルスの終息の目途がつかず、月1回の運営も難しいです。今は食事を作るのではなく、このお米とともに支援物資等を分け、そのままみなさんにお持ち帰りをしてもらっています」といったお話や、「今は中へ入れないので玄関先で物資を皆さんにお渡ししています」など、切実なお声をいただきました。いずれの皆さんもご苦労されながら工夫をされご尽力されています。

(AMDA ボランティアセンター事務局長 竹谷 和子)

## AMDA 学生会誕生！

昨年準備していたAMDA学生会が2021年5月に発足しました。「名前も顔も知らない誰かとともに次の未来へ」をコンセプトに、国内の災害時、直接関わったことのない人のことも見逃さず、困った時にはお互い様で助け合い、同時に次の世代とつながるアクションをおこすことをこれからの活動の指針にしたいと考えています。対象は大学生、大学院生、専門学生で、現在リーダーは常原拓真さん、副リーダーは荒川美優さんです。他6人でスタートしています。

現在予定している活動内容として、①SNSを活用した



SDGsや防災、環境に関連した情報の発信し国際社会や身近な問題に関心をもってもらう、②学生会内部で国際交流イベントを企画(オンライン)などを予定しています。リーダーの常原拓真さんはこの新たなグループを立ち上げるにあたり「私たちが当たり前のように生活している裏側にはまだまだ知らない世界がたくさんあります。少しでも今実際に起きている問題から身近な問題までを学生目線

で考え発信し、問題解決に向けてこれから学生会をスタートさせたいと考えております」と述べていました。

(AMDA ボランティアセンター事務局長 竹谷 和子)



## ムレンマスクのクラウドファンディングで AMDA を支援

ダイヤ工業株式会社 anifull 部門 Section Manager 川田 修司

私たちダイヤ工業は、「muren Mask（ムレンマスク）」を通じて少しでもコロナ禍で苦しんでいる方々へ貢献できればと考え、医療物資の提供を行うクラウドファンディングを2021年3月4日に開始しました。

当初はこのプロジェクトを当社だけで開始しようと構想していましたが、同じ岡山県で活動されているAMDA様と良縁があり、繋がる事ができました。菅波理事長と初めてお会いした際に、一緒にプロジェクトを開始する事を快く引き受けてくださり、さらに「大規模災害発生時における緊急医療支援活動実施に関する連携協定」を結ぶという、私たちの想像よりも大きな社会貢献活動に携わる事へ発展し、とても喜びを感じました。コロナ禍で、人々の生活は窮屈で我慢を強いられ、とても息苦しい毎日を送っています。そんな息苦しさを少しでも「muren Mask（ムレンマスク）」を装着する事で解消できればと考えています。

私たちからAMDA様への支援内容は、クラウドファンディングでご支援頂いた金額の5%を医療物資として提供する事です。具体的には支援総額110,880円の5%にあたる約5,500円分の消毒液を提供する事ができました。今後、この取り組みを通じて世界各国に支援の輪が広がる事を願っております。



## 岡山県立大学大学院「災害医療援助特論」に講師を派遣

AMDAは、岡山県立大学大学院（岡山県総社市）の「災害医療援助特論」に毎年講師を派遣しています。今年はコロナ禍のためオンライン講義となり、AMDA職員に加えAMDAと協力関係を持つ医療・福祉・教育など幅広い分野から11名を派遣しました。

このうち3名の講義は、公開講座として相生市看護専門学校（兵庫県相生市）や朝日医療大学校（岡山県岡山市）など4校と共有されました。

近年、災害時に被災地を支える支援者は、医師や看護師のみにとどまらず、栄養士や心理士、鍼灸師などが参加することも増えてきており、各職種が連携しながら支援活動にあたっています。

AMDA職員・AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム合同対策本部 本部長 大西 彰の講義では、「AMDAが取り組んでいる南海トラフ災害対応プラットフォーム」と題し、『『発災後対応』から『事前備蓄+事前交流』へ』という考え方から、四国を中心に16の自治体とあらかじめ協定を結び、有事には可能な限り素早く対応できる体制づくりに取り組んでいることな



どを紹介しました。

その他の講義でも、AMDAの相互扶助の精神など支援を提供する際に重視している原則や、各々の職種別の関わり方について、また実際の経験に基づいた気づきなどが解説され、受講者は、多くの質問が出るなど熱心に受講する姿勢がうかがえました。

（AMDA スタッフ 湯川 綾）

## コロナ禍におけるインド・AMDA ピースクリニック

昨年、AMDA ピースクリニック (APC) は、インド全土でロックダウン (都市封鎖) が解除された後、コロナの感染予防措置を十分にとった上で、一時的に業務を再開しました。主な業務は地元ビハール州ブッダガヤ近郊のマスティプールとピバルパティに暮らす妊産婦達への保健サービスの



APC 現地スタッフ ラビ氏

の提供と食料の配布です。当時は感染者の数が急速に減り、状況に回復の兆しが見え始めた頃でした。一方、観光地であるブッダガヤでは、客足が途絶え、多くの人が職を失いました。市民に経済的な負担が押し掛かる中、APC では保健サービスと食料の提供を継続しました。

その後、2021 年に入りコロナ感染が再燃。特にヒンズー教の祭典『ホーリー』(3 月末) の頃に、事態は非常に切迫した状況を迎えることとなります。お祭りのために都市部から地方へと沢山の人が帰省したせいで、急速に感染が拡大したのです。

4 月 16 日の時点におけるブッダガヤの感染者数は一日で 52 人を数え、検査の陽性率は 20% でした。寺院は政府の命令によって閉鎖されましたが、私達はそんな中でも感染予防に細心の注意を払いながら、APC の運営を続けました。また前日 15 日は APC の診療日でしたが、来院者に咳や風邪、発熱の症状が見られました。感染予防に配慮し、該当者にはクリニックの外で待つようお願いし、嘱託医のヴェルマ医師が薬を処方しました。

4 月 19 日、ビハール州政府はコロナウイルスの拡散を抑制するための綿密なガイドラインを発表しました。この日、ビハール州では 1 日に 8,960 人、インド全土では 273,802 人のコロナ患者が確認されました。自治体政府の要人にもコロナ陽性者が出現し、地元の医療機関では 8 人が死亡。病院ではベッドと酸素ボンベの不足が懸念され、状況は刻一刻と深刻さを増していました。APC の一時閉鎖について日本側の担当者に相談したところ、翌 20 日より閉所となり、スタッフは全員自宅待機となりました。これにより、週に一度の食料支援も一時的に休止しました。

同じ頃、APC の元スタッフから体調不良の連絡を受けました。本人は自らを隔離して療養に努めたそうで、これがコロナ感染であったことを聞かされたのは、本人が回復した後のことでした。

4 月半ばから 5 月にかけて感染拡大はスピードを増し、多くの人が咳や発熱など風邪のような症状を訴えるようになりました。検査を受けられたのは一部の人に限り、また検査の結果、多くの陽性者が見つかりました。私の家族においても、父や兄弟、子供達を含む 12 人が感染し、一時期は非常に辛い日々が続きました。この感染急拡大の背景には、インドの婚礼シーズンが重なったことが挙げられます。

5 月 5 日、ニティッシュ・クマール州首相が翌 6 日より 15 日までビハール州全域を全面封鎖すると発表しました。このロックダウンは、後に延長されることとなります。その後、一時的な規制緩和措置が二回に渡ってと

られ、一部の商業施設や政府関連施設、必要とされる事業所などが条件付きで再開されました。私達も各自で待機しながら、APC の患者にはヴェルマ医師のクリニックで診療を受けさせる体制をとりました。

現在、自分自身はもとより、家族を含む私達の誰もが、健康面、経済面での問題に直面しています。コロナ以降、インド国内は物価が急上昇しています。感染はここきて急速に収まってきましたが、人々は依然警戒しており、多くの市民は失業中です。政府はコメや小麦粉の配給を、受給資格を持つ貧困層に対して行うと発表しました。APC の利用者もまた、これまで毎週火曜日に行われていた食料配付の再開を心待ちにしています。

以上のような状況とあっては、一日も早く APC を再開するべきだと感じています。毎日でなくとも構いません。決まった日に開所することができれば、利用者達もその都度ヴェルマ医師のクリニックを受診しなくて済みますし、ヴェルマ医師や私達スタッフにとっても大幅な負担軽減になります。先述の通り、毎週火曜日になると、食料配付の再開を待ち望む利用者から催促の声が聞かれます。雨季に入り、雨が降り続くブッダガヤより APC の近況をご報告申し上げます。

(AMDA ピースクリニック現地スタッフ ラビ バルティ ヤダヴ)





## 新型コロナ患者一時療養待機所支援活動

新型コロナウイルスの感染急拡大を受け、岡山県では5月16日から緊急事態宣言が発令されました。自宅や宿泊施設で療養していた患者が、血中酸素濃度低下により、息苦しさを訴えて救急搬送される事例が増加していました。加えて、原則入院が適当である方でも、病床のひっ迫により自宅療養やホテル療養を続けざるを得ない状況でした。

岡山県は夜間を中心に一時的に重篤化したコロナ患者を受入れ、酸素投与や点滴など応急的な処置を行うことができる「待機所」を設置しました。5月19日から試験運用が始まりましたが、運用上課題となっていたのは医療人材確保です。すでにギリギリの状態に対応している県内医療機関よりスタッフを募ることは困難な状況で、AMDAは岡山県の要請を受け5月25日～6月1日までのべ5日間2名の看護師を派遣しました。様々な団体や医療機関が集まっており、県や他職種と連携しながら、待機所の中は自然と意見交換や情報共有を行える雰囲気であり、相互扶助の気持ちをもって活動できる現場でした。活動内容としては、患者対応の他、今後の感染再拡大を見据え、立ち上げ時より作成されていたマニュアルの更新などを行いました。6月1日、「一時療養待機所」の運用は一旦休止となったため、AMDAからの派遣も一旦終了したものの、引き続きAMDAは岡山県と連絡をとり、必要に応じて協力を行っていく方針です。

以下、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科疫学・衛生学分野教授で岡山県クラスター対策班の専門家である頼藤貴志医師のコメントを紹介致します。

「今回の第四波は、岡山県が今まで経験したことがない感染拡大で、連日150人を超える感染者が発生していました。病床や宿泊療養のキャパには限りがあり、苦渋の選択で陽性者の方が自宅療養をせざるを得ない状況でした。その中でこの一時療養待機所の運用となりました。医療従事者の確保が最大の懸念事項でしたが、AMDAをはじめ様々な医療機関が一丸となり、無事に一時療養施設を維持してくれました。本当に感謝申し上げます」

(AMDA プロジェクトオフィサー 橋本 千明)



## 新型コロナ支援：沖縄県高齢者施設支援活動

新型コロナウイルス感染拡大にともない、沖縄県は5月23日より緊急事態措置区域として追加されました。当時、県内でクラスターも発生しており、医療者不足の状況にありました。

5月25日、沖縄県より看護師派遣について要請を受けたAMDAは、翌日よりAMDA緊急救援ネットワークなどで呼びかけを行い、派遣準備を開始。そして6月1日、AMDA緊急救援ネットワーク登録の看護師一人を現地に派遣しました。この看護師は県の指示の下、県内の高齢者施設で活動し、同月7日に無事に帰途につきました。

以下、今回派遣された看護師からのコメントをご紹介します。

「沖縄県における高齢者施設でのクラスター対応に従事させてもらいました。緊急事態宣言が発令されているなか、自分が本当に現地に行って活動することが正しいのか迷うところもありました。それでもAMDAのコンセ



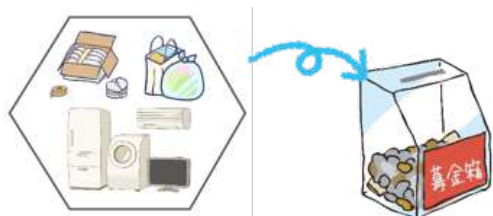
プトにある『困った時はお互い様』の理念のもと、自分ができることをさせてもらおうと思い参加を決めました。入居者のバイタル測定や、食事・清潔介助を中心に従事しました。辛い状況でも私たちに「ありがとう」と言ってくれる人々の暖かさに触れながら無事に活動を終えることができました」

(GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美)

## ♡ あなたの不要品で社会貢献しませんか ♡

～不要品が誰かの役に立つ～

ご家庭で眠っている品物、また職場で使われなくなった物で、AMDA の活動へのご支援をお願いします。「株式会社白石商事」様のご協力により、皆様からお送りいただきました品物の査定金額が寄付金となり、AMDA が行う活動に活用させていただきます。※手数料や送料のご負担は一切ありません。



★ LINE でもお問い合わせできます★  
(下の QR コードは LINE 専用です)



### 【ご支援者さまの手順】

ステップ① 右下の QR コードにアクセスします

ステップ② 品物を梱包します

取扱商品につきましてはサイトからご確認できます

ステップ③ 携帯電話からのアクセスの場合右下、PC からのアクセスの場合右上にあります「集荷申込み」をクリック、集荷予約フォームを記入して予約完了

ステップ④ 宅配業者の着払いにて送ります

ステップ⑤ 査定額の全額が寄付されます

※ご寄付いただきましたご支援者には寄附金控除の領収書を発行致します※

【宅配買取についてのお問い合わせ先】

**株式会社 白石商事**

〒441-8134 愛知県豊橋市植田町字上り戸 77  
TEL.0532-21-7755 (9時～19時・日曜定休)



## AMDA マンスリーサポーター募集

～毎月定額で継続的な支援ができる新しい寄付の仕組み～

国内外の災害から人々の命を守る緊急支援、命を未来につなぐ医療支援、次世代を担う青少年の育成支援、今日の家族の幸せを支える生活支援をマンスリーサポーターの力で継続して支えてくださいますようよろしくお願いいたします。金融機関からの自動引き落としのお申込みの他、クレジットカードからの自動引き落としのお申込みもできるようになりました。

「VISA」「Master」「JCB」「Diners」でのご寄付を受付けております。



※アマダのホームページのご寄付ご支援についてからお申込みください。

\*マンスリーサポーターのクレジットカードからのご寄付は、毎月 5000 円以上からです。

\*クレジットカード寄付の領収日は、カード会社から AMDA へ入金された日です。

\*AMDA から寄付控除の領収書を発行いたします。領収書の発行に 1～2 か月お日にちをいただくことをご了承ください。

\*マンスリーサポーターでのご寄付に対する領収書の発行は、別途ご要望のない限り、1 年分をまとめて翌年 1 月に発行いたします。

\*マンスリーサポーターはいつからでもスタートでき、いつでも停止できます。

ご解約の際は、AMDA のホームページの画面からご自身で停止のお手続きをお願いします。

☆クレジットカード以外でのマンスリーサポーターのお申込みについては、AMDA 本部までお問合せください。

(電話：086-252-7700) (メールアドレス：system\_info@amda.or.jp)



## ホンジュラス・ハリケーン被災者復興支援活動：児童のために

AMDA と AMDA 社会開発機構 (AMDA-MINDS) は、中米ホンジュラス、エル・パライス県にて合同復興支援活動を実施しています。

### 1) 小学校の屋根改修

テウパセンティ市サラディーノ地区にある小学校は、ハリケーンの豪雨で屋根などが損壊。その後も、雨が降ると雨漏りする中で、児童は授業を受けていました。この状況を受け、屋根改修を決定。3 月下旬に工事を開始し、6 月 8 日、無事に完了しました。教員は「改修工事のおかげで、40 名の児童が良い環境で学習することができます」と喜ばれていました。



### 2) 農業技術指導

テクシグア市アグア・カリエンテ村では、60 世帯の農家が 2 月より「災害に強い菜園づくり」に取り組み、野菜や豆、バナナなど様々な作物が順調に成長しています。

同村の小学校でも学校菜園を開始。6 月にはこの菜園で育った野菜を調理し、児童に提供しました。また、以前は学校に水がなく、児童らが 15 分ほど歩いて川で水を汲んでいましたが、学校菜園開始時に現地チームがホースを寄贈。この寄贈によって児童の衛生状況などの改善も見られました。

(GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美)

## ネパール内視鏡技術移転事業：オンラインミーティング実施

AMDA は、AMDA ダマック病院で 2016 年から内視鏡技術向上を目指した研修事業を行っています。新型コロナ



ウイルス感染拡大の影響を受け、2021 年 2 月 14 日にオンラインミーティングを行いました。内視鏡担当のディウス医師は、現状報告と質問の後、佐藤拓史医師より診断方法の指導を受けました。また台湾政府より寄贈された大腸カメラの活用を含め、今後の計画について話し合いました。

4 月末からネパール全土はロックダウンされ、新型コロナウイルス対応病院に指定された同病院は重症患者を含め最大 36 人の陽性患者を受け入れました。現在、内視鏡検査は行っていませんが、感染拡大が収まり次第再開します。

□ AMDA ダマック病院内視鏡医 ディウス ラーズ ボハラ  
オンラインミーティングの意義は佐藤医師から内視鏡について学び、課題や問題について話し合い、自分の知識と技術を磨くことができたと思えました。この時期、佐藤医師がネパールに来て研修を行うことが難しいので、今まで通りオンラインで課題について相談していきたいと思えます。

### □ AMDA 理事/医師 佐藤 拓史

ネパール内視鏡プロジェクトにおいて、渡航できないこの時期にでも出来ること (オンラインでの研修、遠隔での内視鏡診断や治療のサポート等) を考えて活動を継続しています。

内視鏡の検査や治療がまだ充分に行き渡っていない国において、私達のプロジェクトが継続することの意味は大きいと考えています。どんな状況においても、出来ることはあります。この時期を乗り越えて渡航が可能になれば、また現地に赴き活動を再開して、より発展させていきたいと準備しています。

(AMDA 理事 難波 妙)

### 令和仁王講岡山奉修会様より ご寄付

2021 日 5 月 25 日、真言宗大本山随心院・小野講傳所伝授阿闍梨でいらっしゃる安住院の生駒琢一ご住職と真言宗長泉寺の宮本龍門ご住職より、令和仁王講岡山奉修会様からのご寄付が AMDA に贈呈されました。



### ◇ご住職お二人からのメッセージ

「仏教ではご縁を大切にします。様々な人々との繋がりがありそのご縁を結んでくださるものの一つが、AMDA の活動であると信じています」(生駒ご住職)  
「節分にコロナ退散の御祈禱をしており、宗教界から社会へ応援メッセージを何かの形で発信していきたい」(宮本ご住職)

今回のご寄付は AMDA の国内災害救援のために使われます。ご協力とご理解をいただきました令和仁王講岡山奉修会様に心からの感謝を申し上げます。  
(AMDA 理事 難波 比加理)